

宮城県 建築主事 殿

(建築主)

住所
氏名

(設計者)

勤務先住所
名称
氏名

既存ブロック塀・石塀の安全点検報告書

既存ブロック塀または石塀について、点検した結果は次のとおりです。
なお、この点検により問題のあった項目については、早急に改善等の措置を行ないます。

○補強コンクリートブロック塀

点検項目	判定		安全基準
	道路面	他の面	
①塀が高すぎないか、また厚みはあるか	良 い・い	良 い・い	高さは地盤面より2. 2m以下。 厚さは、高さが2m以下の場合には10cm以上、高さが2mを超える場合は15cm以上。
②コンクリートの基礎があるか	あ る・い	あ る・い	基礎の高さは35cm以上、根入れ深さは30cm以上。 *基礎のないもの、小さいものは要注意。
③控え壁があるか	あ る・い	あ る・い	高さ1. 2mを超える場合、3. 4m以下の間隔で必要。 控え壁が塀に接続しているかを確認。 *控え壁がないものは要注意。
④擁壁の上に載せているか、または増し積みしているか	い る・い	い る・い	石積み、またはブロック擁壁などの上にあるのは要注意。 既設塀の上に積みたすのは、鉄筋がつかないのに要注意。
⑤老朽化しているか	い る・い	い る・い	20年以上経過しているかどうかの一つの目安。 古い塀は、ブロックの風化、変色が進みもろくなっているのに要注意。また、内部の鉄筋が腐食している場合もある。
⑥ひび割れ・破損があるか	あ る・い	あ る・い	目地内の縦横ひび割れの大きなもの、縦横筋の位置に入った長い太いひび割れ(鉄筋の腐食膨張によるもの)、壁面の太い縦・斜めひび割れで基礎までつながっているもの(塀の沈下)は要注意
⑦傾斜しているか、またはぐらつきがあるか	あ る・い	あ る・い	大きく傾いているものは要注意(道路側への傾斜は特に注意)。 押すと大きくゆれるものは、基礎がないか、小さいか、地盤が軟らかいのに要注意。
<参考> 鉄筋が入っているか	鉄筋のないもの、鉄筋間隔の広いものは要注意。 9φ以上の鉄筋を縦横に80cm以下の間隔で、末端はかぎ掛け。 有無について、鉄筋探知機により調査することが望ましい。		

(判定欄は該当するものを○で囲むこと)

○石 塀

点検項目	判定		安全基準
	道路面	他の面	
①塀が高すぎないか、また厚みはあるか	良 い・い	良 い・い	高さは地盤面より1. 2m以下。 厚みは高さの1/10以上。
②コンクリートの基礎があるか	あ る・い	あ る・い	根入れ深さは20cm以上。 基礎のないもの、小さいもの、石の基礎は要注意。
③控え壁があるか	あ る・い	あ る・い	4m以下の間隔。 控え壁が塀に接続しているかを確認。 控え壁がないものは要注意。
④擁壁の上に載せているか、または増し積みしているか	い る・い	い る・い	石積み、またはブロック擁壁などの上にあるのは要注意。 既設塀の上に積みたすのは要注意。
⑤老朽化しているか	い る・い	い る・い	石の表面が変色し、はがれているものは風化が進行しており老朽化しているのに要注意。
⑥ひび割れ・破損があるか	あ る・い	あ る・い	壁面の太い縦・斜めのひび割れで基礎までつながっているもの(塀の沈下)は要注意
⑦傾斜しているか、またはぐらつきがあるか	あ る・い	あ る・い	大きく傾いているものは要注意(道路側への傾斜は特に注意)。 押すと大きくゆれるものは、基礎がないか、小さいか、地盤が軟らかいのに要注意。

(判定欄は該当するものを○で囲むこと)

コンクリートブロック塀または石塀のような私的財産は、所有者の責任において管理することが基本であり、不特定または多数の人が通行する道路に面するものの安全確保は、地域社会の共通する願いです。

コンクリートブロック塀または石塀を自己点検し、維持保全に努めましょう。